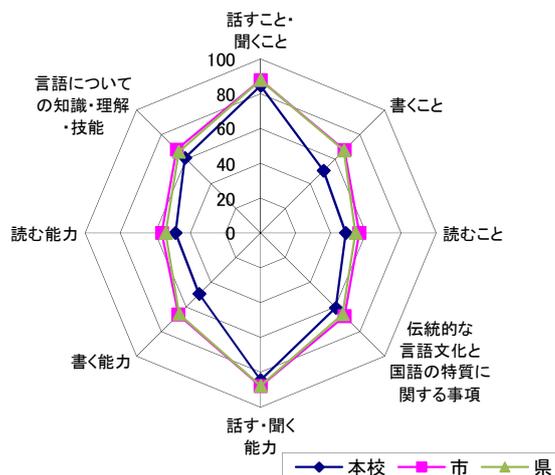


# 宇都宮市立御幸が原小学校第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.5	87.9	87.8
	書くこと	50.7	67.6	67.1
	読むこと	48.5	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.7	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	84.5	87.9	87.8
	書く能力	49.5	66.3	65.7
	読む能力	48.5	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	61.0	67.7	66.0



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、県・市の平均とほぼ同じであり、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことの設問は市の平均をやや上回っている。 ●話し方の工夫に気を付けて聞くことができるの設問は市の平均を下回っている。	・国語に限らず他の教科でも、授業中における発表の仕方の定着や、ペア、グループでの話し合い活動の場を設定する。話すだけでなく相手の話を聞いて、自分の考えを練りなおすといった学習を多く取り入れていきたい。
書くこと	●領域の平均正答率は50.7%で県・市の平均を大きく下回っている。これは問題を読んで取り組もうとしたが、うまく自分の考えがまとまらなかったため、書き終わせない児童が多かったと思われる。	・日頃から、文章を書いて自分の考えをまとめる学習を積み重ね、文を書くことの苦手意識をなくしていく必要がある。また、書くことの単元の学習では、相手や目的に応じた文章の書き方について基本的な知識をおさえて指導していく。それをふまえ、実際に手紙を書く場面を設定し、個に応じた指導をしていきたい。
読むこと	●領域の平均正答率は48.5%で県・市の平均を大きく下回っている。特に説明文では、目的や必要に応じて、中心となる語をとらえる設問、物語文では、登場人物の気持ちを想像して読むことの設問の正答率が低くなっている。	・説明文では、段落の中で大切な言葉をとらえながら、接続語、指示語に注目させて、段落と段落のつながりや構成を考えていくといった読み方の指導をし、説明文の読み方の定着を図りたい。また物語文では、登場人物の気持ちが分かる文や言葉に注目して、話の展開が分かるような板書の工夫やワークシートを使用しながら言葉を大切にしたい読み方の指導をしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は60.7%で県・市の平均を下回っている。しかしローマ字の学習では、市の平均を7ポイント上回っており、パソコンを使用して調べ学習をしているため定着が図られたのではないかとと思われる。	・漢字や言語の学習において、積極的に漢字辞典や国語辞典を使用し、漢字や言葉の意味をよく理解させながら、定着を図ってほしい。また習った漢字は、日頃から使うように意識づけし、漢字練習を朝の学習や家庭学習に取り入れ、定着を図りたい。